

# 300および500シリーズマネージドスイッチでのTelnetサービスの有効化

## 目的

Telnetは、インターネットまたはLAN上のコマンドラインインターフェイスでデバイスを制御できるようにするネットワークプロトコルです。 Telnetが有効な場合、管理者はTelnetクライアントアプリケーションを使用してスイッチを設定できます。ただし、Telnetメッセージは暗号化されないため、SSHサービスを使用することをお勧めします。

この記事では、SF/SG 300およびSF/SG 500シリーズマネージドスイッチでTelnetサービスを有効にする方法について説明します。

## 該当するデバイス

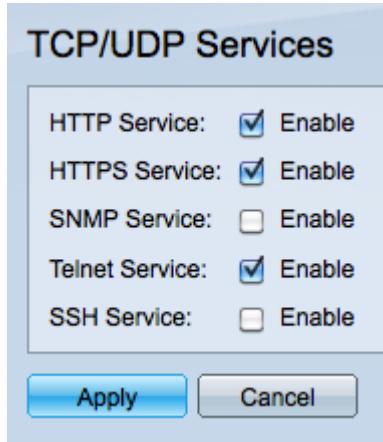
- SF/SG 300シリーズマネージドスイッチ
- SF/SG 500シリーズマネージドスイッチ

## [Software Version]

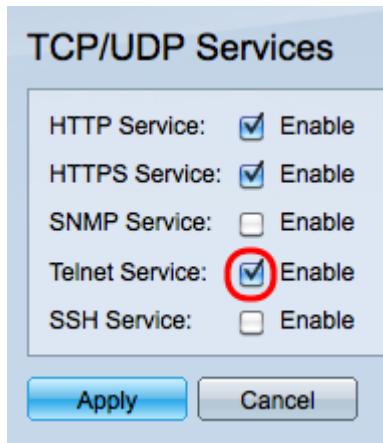
- v1.4.1.3

## Telnetサービスの有効化

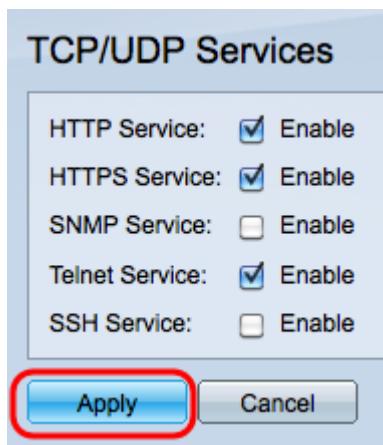
ステップ1:Web構成ユーティリティにログインし、[Security] > [TCP/UDP Services]を選択します。[TCP/UDP Services]ページが開きます。



ステップ2:[Telnet Service]チェックボックスで[Enable]をオンにして、Telnetを使用したスイッチのアクセスを有効にします。

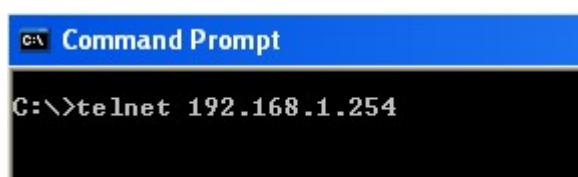


ステップ3:[Apply] をクリックして、Telnetサービスをすぐに有効にします。



注 : Windowsオペレーティングシステムの場合、Telnetコマンドは、オペレーティングシステムを介して有効にされるまでCMDで使用できません。詳細については、「[Windows Telnet:よく寄せられる質問](#)」ページ。

ステップ4:Telnet経由でスイッチにアクセスするには、コマンドプロンプトを開き、**telnet n.n.n.n**と入力します。グラフィカルユーザインターフェイスへのアクセスに使用したのと同じユーザ名とパスワードを入力します。



注 : n.n.n.nは、スイッチのIPアドレスを表します。スイッチのデフォルトIPアドレスは192.168.1.254です。